

令和 7 年 6 月 17 日現在

機関番号：34303

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2021～2024

課題番号：21K02989

研究課題名（和文）心的視点取得過程の個人内メカニズムの解明と促進方法の開発

研究課題名（英文）Elucidating the Mechanisms of Psychological Perspective-Taking and Developing Effective Interventions

研究代表者

神原 歩（Kambara, Ayumi）

京都先端科学大学・人文学部・准教授

研究者番号：30726104

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,000,000円

研究成果の概要（和文）：近年、心的視点取得と空間的視点取得は、いずれも自身の身体表象を相手の視点位置へと移動させる心的シミュレーション（以下、仮想的身体移動）を共通基盤としている可能性が指摘されている。本研究は、空間的視点取得を促進する以下の2条件を心的視点取得に応用し、その促進効果を検討した。検討の結果、対象と向き合う角度を小さくすること、対象の位置への移動に必要な動作と一致する身体姿勢をとることにより心的視点取得が容易になる可能性が部分的に支持された。ただし、心的視点取得時に「仮想的身体移動」が行われているかを断定するには、今後さらなる検討が必要である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の目的は、心的視点取得を効果的に促進する方法を開発することであった。研究の結果、対象と向き合う角度を小さくすることや、対象の物理的位置に移動する際に必要な動作と一致した身体姿勢をとることで、心的視点取得が容易になる可能性が示された。心的視点取得傾向の低さは、社会的不適応と関連していることが先行研究で指摘されている。本研究の成果は、心的視点取得のメカニズムの一端を明らかにし、心的視点取得に困難を抱える人がどの過程で躓いているのかを把握する手がかりを提供するものである。将来的に、心的視点取得に困難を抱える人を対象とした心的視点取得トレーニングの開発に寄与することが期待される。

研究成果の概要（英文）：In recent years, it has been suggested that psychological perspective-taking and visuospatial perspective-taking may share a common underlying mechanism—mental body transformation, in which one's bodily representation is mentally transformed to the target person's viewpoint. In this study, two methods known to facilitate visuospatial perspective-taking were applied to facilitate psychological perspective-taking, and their effects were examined. The results partially supported the hypothesis that psychological perspective-taking becomes easier when (1) the angular disparity between oneself and the target is minimized, and (2) the body posture is congruent with the movement required to reach the target's physical position. These findings suggest that mental body transformation may also be partially involved in psychological perspective-taking. However, further research is needed to determine it.

研究分野：社会心理、認知心理

キーワード：perspective taking egocentrism Theory of mind

1. 研究開始当初の背景

心的視点取得,すなわち「相手の立場に立って相手の考えを想像・理解すること」はスムーズな社会生活を営むうえで不可欠な能力である。この能力の低さは,社会的不適応と関連することが指摘されており,その重要性から,心的視点取得を促進する方法には注目が集まってきた。

しかし,従来の研究は,「相手の立場に立って考える」という行為が漠然とした「ひとまとまり」の概念として捉えられており,人が相手の立場に立とうとする時に心の中で何を行っているのか,すなわちその個人内メカニズムについて分析的検討がなされていなかった。そのためもあり,従来開発された促進方法は,「相手の立場に立って考えるように促すこと」や,「相手の役割を演じる経験をさせること」であり,いずれも人に追加の認知的コストを要求するものであった。そこで本研究では,心的視点取得に関わる個人内メカニズムを明らかにし,更なる時間や労力を必要としない,画期的な促進方法の開発を目指すこととした。

2. 研究の目的

そこで本研究は,①心的視点取得過程の構成要素を明らかにし,②その構成要素への介入によって,認知的コストを要しない心的視点取得促進方法を開発することを目的とした。文献調査の結果,これまでの理論的検討によると,心的視点取得過程と空間的視点取得(自分の物理的位置と異なる位置からの見え方を想像すること)過程は,自動的に生じる自己視点の知覚や経験から一旦離れ,それとは異なる視点からの知覚や経験を推測するという点で共通していると考えられており(図1),空間的視点取得に含まれる「仮想的身体移動」が心的視点取得にも関与している可能性が示唆されている。そこで,心的視点取得と空間的視点取得が「仮想的身体移動」という共通基盤を有するなら,空間的視点取得を促進することが知られている身体動作が,心的視点取得も促進するかを検討することを目的とした。

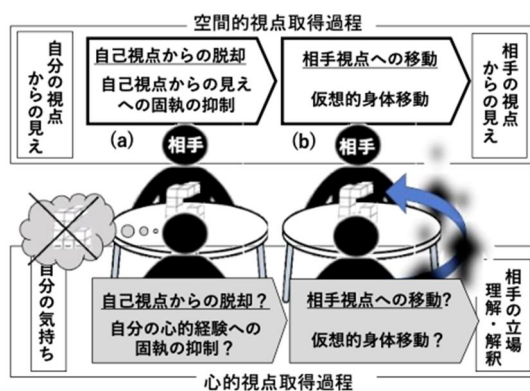


図1. 空間的視点取得過程と心的視点取得過程

3. 研究の方法

まず文献調査を行い,空間的視点取得に含まれている仮想的身体移動が心的視点取得にも関与しているという仮説を立てた。そのうえで,空間的視点取得を促進することが知られている以下の2つの条件が心的視点取得を促進するかを検証する実験室実験を行った。

1) 対象と向き合う角度が小さいこと

空間的視点取得では,対象と向き合う角度の乖離が小さくなるほど仮想的身体移動が容易となり反応時間が短縮することが示されている。そこで,心的視点取得時にも同様の効果が生じるかを検討するために,タッピングパラダイム(Griffin & Ross, 1991)を用いて,対象(サクラ)と向き合う角度が0度(正対)条件と180度(横並び)条件での心的視点取得の正確さを比較した。

2) 対象の物理的位置への移動と一致する身体姿勢をとること

空間的視点取得では,対象の位置に移動するための動作と一致した身体姿勢をとることで,反応時間の短縮と正答率の向上が報告されている。これを心的視点取得に応用し,実験参加者から見て135度の位置にいる対象(サクラ)に対して,仮想的身体移動と一致する身体姿勢をとる条件と,相反する姿勢をとる条件を設定し,両条件における正確さを比較した。

4. 研究成果

- 1) 空間的視点取得と心的視点取得の関連についての文献調査結果をレビュー論文にした。
- 2) 空間的視点取得を促すことが示されている次の2つの条件,1.対象と向き合う角度を小さくすること,2.対象の物理的位置への移動に必要な動作と一致する身体姿勢をとること,にとって心的視点取得が容易になる可能性が部分的に支持された。特に2つ目の条件については,操作の妥当性に課題があり,心的視点取得と空間的視点取得が共通の基盤を持つか

どうかについては、これら 2 つの実験結果のみでは断定することができなかった。空間的視点取得と心的視点取得が「仮想的身体移動」という共通基盤を有するかを明らかにするには、今後のさらなる検討が必要である。

本研究の成果は、心的視点取得のメカニズムの一端を明らかにすることであり、視点取得に困難を感じる人が、どの過程において課題を抱えているのかを明確化する手がかりを提供する。また将来的には、そうした人々を対象とした心的視点取得トレーニングの開発にもつながることが期待される。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 2件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 Kambara Ayumi	4. 巻 92
2. 論文標題 Effects of experiencing visual illusions on susceptibility to biases in opponent's social judgments	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Japanese journal of psychology	6. 最初と最後の頁 12~20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4992/jjpsy.92.20014	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Muto Hiroyuki	4. 巻 68
2. 論文標題 Correlational Evidence for the Role of Spatial Perspective-Taking Ability in the Mental Rotation of Human-Like Objects	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Experimental Psychology	6. 最初と最後の頁 41~48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1027/1618-3169/a000505	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Quesque Francois, Imai Akira, Susami Kenji, Chiharu Niki, Chabanat Eric, Alexandre Foncelle, Jean Baptiste Van der Henst, Ayumi Kambara and Yves Rossetti	4. 巻 -
2. 論文標題 Japanese are less human-centred than French: A new view on spontaneous perspective-taking in Easterners	5. 発行年 2026年
3. 雑誌名 Behavioral Sciences	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 Ducray M, Chabanat E, Kambara A, Foncelle A, Rossetti Y, Quesque F	4. 巻 -
2. 論文標題 Mirroring or perspective taking? The effect of imitation strategies on visuo-spatial perspective-taking and empathy	5. 発行年 2026年
3. 雑誌名 Behavioral Sciences	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 神原歩・武藤 拓之
2. 発表標題 「向かい合う」より「肩を並べる」方が、相手の気持ちがわかるのか？ 自己と他者の身体角度の差が心的視点取得の正確性に与える影響
3. 学会等名 日本心理学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 田端 拓哉・神原歩
2. 発表標題 錯視経験は自己概念および自己評価を曖昧にするか(2)
3. 学会等名 日本認知心理学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Ayumi Kambara
2. 発表標題 Doubt your eyesight before criticizing opponents: Effect of visual illusions on social biases
3. 学会等名 Illusion of the Fortnight University of Glasgow. (国際学会)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 安藤 香織 (編集), 杉浦 淳吉 (編集)	4. 発行年 2024年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 176
3. 書名 新版 暮らしの中の社会心理学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	武藤 拓之 (Muto Hiroyuki) (60867505)	京都大学・こころの未来研究センター・特定助教 (14301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関